

障害福祉サービス事業所の特色ある 取り組みをご紹介します

長崎県CSR通信
～ 第121号 ～

新設の事業所でも、一般就労移行実績が優れている事業所があります。平成25年3月に開設された一般社団法人きらく福祉事業会「障がい者就労支援施設 きらく大村」の平成26年度の実績は、就労移行支援事業10名の利用定員に対して6名でした。

今回は、法人代表理事兼管理者の 山下長二郎 様 と サービス管理責任者の 丸山和美 様 にお話を伺いました。

～ 多様な訓練・作業による一般就労移行支援 障がい者就労支援施設 きらく大村 ～

事業所の現況を教えてください？

「当初より移行支援とA型のサービスを行っています。訓練・作業内容としては、農業、手芸、パソコン、企業等からの請負作業です。A型は農業と手芸を行っており、移行支援ではパソコン訓練も行います。また、現在、利用されている方の障害種別は、身体・精神・知的の3障害の方ですが、これまで発達障害の方や難病の方の利用もありましたし、発達障害の方については、2名の一般就労実績があります。」

小規模ながらも多様なことをされていますが、事業所全体の特色はどのようなものでしょうか？

「ハード面では、木造2階建ての古い建物ではあるもののバリアフリーに改装しているので、車椅子での利用も可能です。また、ハローワークが徒歩圏内にありますので、利用者の方と支援員と一緒に相談に行くことが容易です。ソフト面では、全員が集まる朝礼の際に、利用者の方に当番制で一分間スピーチをしてもらっています。人前で話すことに慣れていただくためです。」

支援に際して、どのようなことに留意されていますか？

「利用を希望される方には、原則として、体験利用をしていただいてから利用するかどうかを考えていただきます。当事業所のサービス内容には合わないと思われる方には、B型利用の検討を勧めることもあります。パソコンに関しては、全くの初心者の方にも基礎から丁寧に個別指導し、就職の際に有利となる検定・資格取得のための指導も行います。企業等からの請負に関しては、多様な作業を請け負い、利用者の方が作業をされる中で、支援員が本人の特性や得意なことと不得意なことを把握していきます。」

利用者の方が就職活動を始められるタイミングは？

「人により異なりますが、多くは、本人の技能習熟の状況等を見て支援員が判断し、ハローワークには、利用者と一緒にいきます。」
今後の抱負をお聞かせください。

「農業部門を拡大していきたいと考えています。当初は、農業機械購入などの投資が高まりましたが、生産力も向上してきましたので、収穫物を納品、販売するところを確保することが課題です。それと、もちろん、これからも一人でも多くの方に一般就労していただくために、利用者ご本人、そのご家族、地域の方々、関係機関等と力を合わせて、全力で支援していきます。」



お話を伺った山下様（右）と丸山様（左）。手に持たれているものは、事業所内で製作した今年の干支「猿」をモチーフにした手芸品。



企業から請負った仕分け、封入作業の様子。共同作業なので、チームワークが必要です。



ニットを使った手芸品「布ぞうり」の製作の様子。色柄の組み合わせが同じ物はなく、全て一点物です。一つ一つを丹精込めて織り込んでいきます。

「長崎県CSR通信」 電話095-895-2454
FAX095-823-5082
発行 平成28年1月14日 長崎県福祉保健部障害福祉課
バックナンバーは「長崎県CSR通信」で検索

事業所の商品又は体験利用の詳細は、下記へお問い合わせください。
一般社団法人きらく福祉事業会
障がい者就労支援施設 きらく大村
〒856-0813 大村市西大村本町366-2
TEL 0957-47-9336
FAX 0957-47-9356